

事業名	さとうきび持続的生産支援緊急対策事業
-----	--------------------

総事業費	888 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	農業農村整備

② 実施 (Do)

事業の意図	中出し作業に係る経費の一部を軽減することで、さとうきび経営の安定化を推進し、栽培面積、生産量の維持・拡大を目指す。	
事業の実績 と成果	取組内容	市農業振興公社が設定するさとうきび中出し料金(880円(税込))に対して、市・新光糖業・農協がそれぞれ200円ずつ助成する。
	成果	機械収穫を委託する上で負担となっていた中出し料金を一部助成したことで、経営の安定化が図られ、生産意欲が向上し、栽培面積の増となった。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	市きび・甘藷生産振興会会長から、本市の基盤整備の実情等を考慮して事業継続についての要望があった。今後本市の基盤整備の割合が急速に大きくなることも考えられない上、事業を中止した場合には中出し料金の対象となっていた圃場が耕作放棄地となる懸念があり、事業の継続をいつまでもするのが難しい。(※さとうきび振興の面からも、今後も事業を継続していけるよう新光糖業と農協と協議した。)
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	令和6年度は、前年度に引き続き機械収穫を委託する上で負担となっている中出し料金を引き続き助成することで、経営の安定化が図られ、栽培面積の増に繋がった。今後も、機械収穫サツマイモ基腐病の影響等により、さつまいもからキビへの転作による面積増や新品種「はるのおうぎ」の普及により生産量の増が見込まれる。一方、栽培面積が、目標値を上回る実績となっていることから、助成継続については新光糖業やJAとも協議する必要がある。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	本市農地の半分以上が小規模で基盤整備の整っていない農地(圃場整備未実施の農地)であり、市きび・甘藷生産振興会会長からも要望があったため、令和7年度についても引き続き、支出が必要となる。
------------	--

事業名	県営畑地帯総合整備事業
-----	-------------

総事業費	24,706 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	農業農村整備

② 実施 (Do)

事業の意図	施設の長寿命化・通作条件の向上を図り、更には作物生産性の向上を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	土層改良や農道整備を実施するため、県担当者との調整を行った。
	成果	事業進捗も順調に進んでいる。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	完成した農道や土層改良に伴う受益者の満足度が得られるのか疑問視される案件が見受けられる。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	県営畑地帯総合整備事業の計画に基づき、令和5年度は、西京南地区において農道(L=501m)、横山地区において農道(L=966.2m)がそれぞれ整備された。また、住吉地区においては、実施計画書(橋梁耐震補強設計、路面改良 L=100m)の策定を行った。事業の進捗により、通作条件・作物生産性の向上が図られており、引き続き県との連携を密にしながら、地元要望に沿って事業を進めていきたい。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	より地元要望に沿った基盤整備に向けた調整を行う。
------------	--------------------------

事業名	県営中山間事業西之表創生地区
-----	----------------

総事業費	10,000 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	農業農村整備

② 実施 (Do)

事業の意図	農家の営農体系強化と住みやすい農村集落の環境を創出する。	
事業の実績 と成果	取組内容	ほ場整備計画地区の換地委員会の開催、用排水路整備の設計協議や地元説明会を行なった。
	成果	ほ場整備の換地委員会を予定通りこなすことができ、来年度以降の工事着手が見込めるようになった。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	整備予定箇所数が多いため、進捗状況が懸念される。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	県営中山間地域総合整備事業の計画に基づき、令和6年度は、ほ場整備1団地（ゴロンゴウチ団地 1.6ha）において、圃場整備が行われた。引き続き、県と連携を図りながら、地元要望に沿った事業を推進したい。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	事業進捗向上に努める。
------------	-------------

事業名	農業水路等長寿命化・防災減災事業
-----	------------------

総事業費	10,000 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	農業農村整備

② 実施 (Do)

事業の意図	老朽化した基幹的な農業水利施設の機能回復と漏水を防止する。	
事業の実績 と成果	取組内容	西京ダム・畑かん施設の長寿命化対策を行い、施設の延命化を図る。
	成果	営農用の農業用水の安定供給が確保される。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	施設点検の結果に伴い、老朽化した施設の更新や補修を年次的に実施しているが、資材高騰等で経費が高騰している。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	西京ダムは、施設供用後25年以上が経過し老朽化が進んでいる。このため、県営事業により畑かん施設整備補修、西京ダムから各幹線の監視機器等更新を行い施設の長寿命化を図っている。令和6年度は、西京ダム安全施設更新（ガードレール等L=450m）のほか、西俣1号及び2号井堰補修を行った。資材高騰等で経費が高騰しているが、本市農業の基盤となる重要な施設であり、引き続き維持管理に努めていきたい。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	施設の延命化を図る。
------------	------------

事業名	県営農地整備事業（通作・保全）
-----	-----------------

総事業費	11,175 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	農業農村整備

② 実施 (Do)

事業の意図	施設の適時・適正な保全対策を実施し、より一層の施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	路線全体の路面状況を把握し、県担当者との協議を行い、優先箇所を設定していく。
	成果	安全かつ安心できる通作条件の改善が図られる。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	住吉地区の農道開設後古い施設では30年以上が経過し、各所で老朽化が進んでいることから、計画的な保全整備を行い農道施設の長寿命化を図るものである。引き続き、補強改修を行い施設の維持に努めたい。 令和6年度は、橋梁耐震補強設計一式、路面改良工 L=100mを行った。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	塩害により老朽化した橋梁の補修を行う。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	塩害により老朽化した橋梁の補修を行う。
------------	---------------------

事業名	県営農地整備事業（通作・保全）
-----	-----------------

総事業費	11,175 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	農業農村整備

② 実施 (Do)

事業の意図	施設の適時・適正な保全対策を実施し、より一層の施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	路線全体の路面状況を把握し、県担当者との協議を行い、優先箇所を設定していく。
	成果	安全かつ安心できる通作条件の改善が図られる。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	事業進捗の遅延が懸念される。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	住吉地区の農道開設後古い施設では30年以上が経過し、各所で老朽化が進んでいることから、計画的な保全整備を行い農道施設の長寿命化を図るものである。引き続き、補強改修を行い施設の維持に努めたい。 令和6年度は、橋梁耐震補強設計一式、路面改良工 L=100mを行った。引き続き、県と連携し計画的な保全整備を行い農道施設の長寿命化を図りたい。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	塩害により老朽化した橋梁の補修を行う。
------------	---------------------

事業名	県営農地整備事業（通作・基幹）現和地区
-----	---------------------

総事業費	1,500 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	農業農村整備

② 実施 (Do)

事業の意図	農地の大区画化や農作物の効率的出荷・処理加工のための施設整備等との有機的な連携のもとに、農地の通作条件の改善や集出荷の効率化、農作業の機械化による生産性向上を図るため、農地への通作条件等を確保する農道を整備し、農家の生産条件と産地確立を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	令和4年度に新規事業で採択され、令和6年度も引き続き実施設計を行い、地元説明会等を行った。
	成果	地元説明会では、事業の計画や線形等の同意がある程度得られた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	農道整備では、個人等の用地取得が必須であることから、地元説明会を重ね施工同意が得られるよう努めていきたい。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	本事業は、令和4年度に新規事業で採択され、現和地区の農道整備を県営事業で実施するものである。令和6年度は、実施設計（L=700m）が行われた。本基幹農道の整備により、当該地区の営農の省力化や農作物・生産資材（物流）の安定化が図られるため、引き続き県と連携を図りながら、地元説明会を重ね施工同意が得られるよう努めていきたい。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	基幹農道の線形決定や地元説明会を行う。
------------	---------------------

事業名	農道整備事業（西之表地区）
-----	---------------

総事業費	104,119 千円
------	------------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	農業農村整備

② 実施 (Do)

事業の意図	農道の改良舗装工事を行うことで、圃場までの通作条件が改善され、大型機械化への導入も進み、農業生産の向上が期待できる。	
事業の実績 と成果	取組内容	過去の要望地区をとりまとめ、年次的に測量設計及び工事を行っていく。
	成果	営農者の通作条件及び出荷条件を改善することで、農業作物の生産性向上が見込まれる。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	全体計画を作成し整備を行っていくが、かなりの延長であり、長期的な整備が必要となる。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	本事業は、大型機械導入を推進するため農道の改良舗装工事を行い、農業生産性の向上を図ることを目的としている。 令和6年度は、舗装工事（鬼ヶ野線外2路線）のほか、改良（田中野、樋之上線及び舗装（安川2号線外4路線）に係る測量設計を実施した。引き続き、計画的に事業を進めていきたい。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	農道整備における測量・設計を発注し、併せて工事を行っていく。
------------	--------------------------------

事業名	畑地かんがい施設整備事業（西之表地区）
-----	---------------------

総事業費	122,159 千円
------	------------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	農業農村整備

② 実施 (Do)

事業の意図	老朽化した基幹的な農業水利施設の機能回復と漏水事故を防止する。営農用水施設を増加し、作物生産における農業用水の安定確保を目指す。	
事業の実績 と成果	取組内容	農業水利施設（パイプライン）の長寿命化対策の機能保全を行うため、パイプラインの更新と、営農のための用水施設を10箇所計画し整備を行っていく。
	成果	農業用水の安定的な供給をすることで、作物生産の向上が見込まれる。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	パイプラインの更新に関しては、口径も大きく埋設道路も狭い道が多いため、通行止め等工事施工に支障をきたす懸念がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	本事業は、安定した農業用水の確保を行うことにより、農業生産性の向上を図ることを目的としている。令和6年度は、西京幹線水路（送水管φ700）整備工事、安納幹水路（配水管φ600）実施設計、国上中目雑用水施設の用地買収を実施した。引き続き、計画的に事業を進めていきたい。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	畑地かんがい施設のパイプラインの更新工事と農業用水施設の実施設計並びに用地取得を行う。
------------	---

事業名	用排水路施設整備事業（西之表地区）
-----	-------------------

総事業費	57,132 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	農業農村整備

② 実施 (Do)

事業の意図	用排水路整備することにより、水田地帯の安定的な用水確保や水田の災害防除を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	地元要望の収集や用排水路の現地調査を行い、設計委託を行い用地取得後、工事を発注する。
	成果	水田地帯の用水の安定確保や圃場の災害防除が図られる。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	事業開始に伴い地元要望が多いため、事業化に向けた現場調査・効果等を十分精査する必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	本事業は、水田地帯の安定した用水の確保や豪雨等による水田の災害防除を行うことにより、農業生産性の向上を図ることを目的としている。 令和6年度は、実施設計（小宮田、西俣、又延、大田代、西浦）、詳細設計（下能野）、用地買収（横山、軍場、下能野、）、工事（軍場）を実施した。引き続き、計画的に事業を進めていきたい。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	要望地区の測量・設計を発注し、次年度以降の工事発注の準備を行う。
------------	----------------------------------

事業名	鳥獣被害防止ネット助成事業
-----	---------------

総事業費	3,386 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	農業農村整備

② 実施 (Do)

事業の意図	鳥獣被害に対する自己防衛の推進を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	鹿ネット・支柱及び防鳥ネットについて、各店舗において助成額分を差し引いた額で販売し、その実績に基づいて適切な助成を行った。
	成果	農家自身での鳥獣被害防除対策として、鳥獣侵入防止ネットの普及及び設置が進んだ。 特に今年度はヒヨドリの飛来が多く、防鳥ネットの設置が進んだ。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	鳥獣被害防止ネットを設置しても鳥獣被害にあふ事例が発生しているため、これまで以上の効果的なネット設置方法等の周知が求められる。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	鳥獣被害を防止するためのネット助成事業は、支柱も含め各農家が購入した実績に基づき執行している。 近年、農家の自衛意識も高まり防除ネットや金網柵の設置と併せ、有害鳥獣捕獲等により、農作物の被害額は減少傾向にある。 一方、令和6年度は、ヒヨドリによるブロッコリー等の冬作物の被害が多く見られた。ヒヨドリの飛来は年によって差が大きく、効果的な被害防止策について課題も残されている。また、依然としてシカを中心とした有害鳥獣捕獲頭数が多いことから、支援を継続しつつ、被害防止に努めたい。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	シカ侵入防止ネットについて、更なる普及を図る。
------------	-------------------------

事業名	鳥獣被害防止活動お助け隊設置事業
-----	------------------

総事業費	3,669 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	農業農村整備

② 実施 (Do)

事業の意図	鳥獣による農作物被害の報告を受けてから、被害状況・侵入経路等の確認を実施することで、捕獲依頼までを迅速に行うことが出来る。	
事業の実績 と成果	取組内容	有害鳥獣による農作物被害状況の把握のため、定期的に市内を巡回し、現地確認を実施した。集約した情報を捕獲従事者へ提供することで効果的な捕獲の実施した。また、農家よりシカの捕獲依頼があった際は、速やかに被害状況の確認を行い、必要があれば捕獲従事者へワナの架設依頼を行った。
	成果	鳥獣による農作物被害の報告を受けた後、速やかに現地で被害状況の確認を行い、捕獲従事者へワナの架設依頼をすることで被害の拡大を抑えることができた。また、埋設場の巡視を順次行い、埋設不備個体の早期対応を行うことができ、異臭等の対応を速やかに行うことができた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	鳥獣侵入防止柵・ネットの設置指導及び改善状況の把握に努める必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	鳥獣被害防止活動お助け隊については、巡回員と事務補助の合わせて2名を雇用し、巡回による鳥獣被害状況の把握及び金網柵及び鳥獣被害防止ネット等の設置指導に努めている。全体として被害が減少傾向にあるが、令和6年度はヒヨドリの被害が多く見受けられた。 鳥獣による農作物被害の報告を受けた場合、速やかに現地で被害状況の確認を行い、捕獲従事者へワナの架設依頼をする等、被害の拡大を抑えるよう取り組んでおり、引き続き状況把握に努め、被害低減に繋げたい。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	鳥獣被害防止のために鳥獣被害防止ネット等の設置指導及び鳥獣被害状況の把握等を行うとともに、有害鳥獣捕獲期間の従事者の違反等の見回り強化を図る。
------------	---

事業名	鳥獣被害対策実践事業
-----	------------

総事業費	23,055 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	農業農村整備

② 実施 (Do)

事業の意図	有効な鳥獣被害防止対策の普及啓発を図る。シカによる農作物への被害軽減が図られる。	
事業の実績 と成果	取組内容	狩猟免許取得のための講習会受講費助成を実施、シカの捕獲強化のため、従事者へ貸与するくくり罠の購入。 協議会で金網柵資材を購入し、各地区組合で自力施工による設置を行った。 農作物被害発生予察による有害鳥獣捕獲指示による計画的な捕獲を実施。
	成果	今年度の新規狩猟免許取得者は3名（うちわな2名、わな・猟銃両方1名）、および、くくり罠を20本購入し、くくり罠の故障等があったものについて適時交換を行い、捕獲活動のサポートを行った。 圃場を金網柵で囲むことで、鹿の侵入を防ぎ、被害防止を図れる。 効果的な捕獲を実施することができ、農作物被害削減に努めることができた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	捕獲活動を実施しつつ、地域ぐるみでの鳥獣被害防除体制作りを推進する必要がある。また、来年度ジビエ加工施設を開設予定であり、ジビエ加工施設及びジビエについて普及活動を行うとともに、市民への周知・理解を広めていく必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	鳥獣被害防止計画に基づくソフト面対策として、狩猟免許取得講習会費用の助成、くくり罠貸与品購入、および、シカの捕獲を行った。ハード面としては、金網柵の整備を行い、被害防止に努めることができた。また、令和6年度においては捕獲後の鳥獣を有効活用するため、ジビエ加工施設の開設に意欲のある猟友会会員等とともに先進地視察を行った。ジビエ加工施設については、これまで運営が難しいとされ実現まで至っていなかったが、次年度において民間による施設設置に対し必要な機材等への支援等を行うことで開設に繋げたい。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	鳥獣被害防止計画に沿った事業の実施及びジビエの普及に力を入れる。 鳥獣被害防止計画及び農作物被害発生予察に沿った捕獲活動の支援をする。
------------	--

事業名	鳥獣被害防止総合対策推進交付金事業
-----	-------------------

総事業費	650 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	農業農村整備

② 実施 (Do)

事業の意図	有効な鳥獣被害防止対策の普及啓発を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	農業者の自己防衛手段として、狩猟免許取得のための講習会受講費助成を実施。 シカの捕獲強化のため、従事者へ貸与するくくり罠の購入をした。
	成果	新規狩猟免許取得者3名（うちわな2名、わな・猟銃両方1名）で、狩猟者登録を行い、来年度有害捕獲活動従事者になるのはそのうち3名。 今年度20本くくり罠を購入し、くくり罠の故障等があったものについて適時交換を行い、捕獲活動のサポートを行った。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	捕獲活動を実施しつつ、地域ぐるみでの鳥獣被害防除体制作りを推進する必要がある。また、来年度ジビエ加工施設を開設予定であり、ジビエ加工施設及びジビエについて普及活動を行うとともに、市民への周知・理解を広めていく必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	鳥獣被害防止計画に基づくソフト面での対策として、狩猟免許取得講習会費用の助成、くくり罠貸与品購入を行った。また、令和6年度においては捕獲後の鳥獣を有効活用するため、ジビエ加工施設の開設に意欲のある猟友会会員等とともに先進地視察を行った。ジビエ加工施設については、これまで運営が難しいとされ実現まで至っていなかったが、次年度において民間による施設設置に対し必要な機材等への支援等を行うことで開設に繋げたい。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	鳥獣被害防止計画に沿った事業の実施及びジビエの普及に力を入れる。
------------	----------------------------------

事業名	鳥獣被害防止総合対策整備交付金事業
-----	-------------------

総事業費	7,095 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	農業農村整備

② 実施 (Do)

事業の意図	シカによる農作物への被害軽減が図られる。	
事業の実績 と成果	取組内容	協議会で金網柵資材を購入し、各地区組合で自力施工による設置を行った。
	成果	圃場を金網柵で囲むことで、鹿の侵入を防ぎ、被害防止を図れる。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	各地区組合ごとの管理方法に差がある。 管理方法についての周知を徹底する必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	令和6年度は、鳥獣被害防止計画に基づく計画延長には至らなかったが、申請のあった3,555mの金網柵については、予定どおり整備がなされた。設置後の防止効果を低下させてないよう、各組合への施工後の管理等について、引き続き指導を徹底したい。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	各地区組合の施工管理及び施工後の管理方法の改善を図る。金網柵を設置していない農家へ本事業の普及を図る。
------------	---

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	金網柵完成検査の様子

事業名	鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業
-----	------------------

総事業費	15,375 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	農業農村整備

② 実施 (Do)

事業の意図	鹿捕獲の推進を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	農作物被害発生予察による有害鳥獣捕獲指示による計画的な捕獲を実施した。
	成果	効果的な捕獲を実施することができ、農作物被害削減に努めることができた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	鳥獣被害防止計画に基づき、目標とした鹿捕獲数は前年度同様に概ね達成されている。 農作物被害は減少傾向にあるものの、令和6年度の捕獲数は前年度並みに捕獲されており、引き続き市猟友会と連携した継続的な取組により、農業被害の軽減に結びつけたい。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	鳥獣被害防止計画及び農作物被害発生予察に沿った捕獲活動の支援をする。 捕獲活動に違反・マナーの改善に努める。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	鳥獣被害防止計画及び農作物被害発生予察に沿った捕獲活動の支援をする。 捕獲活動に違反・マナーの改善に努める。
------------	---

事業名	自給飼料生産拡大事業
-----	------------

総事業費	25,384	千円
------	--------	----

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	農業農村整備

② 実施 (Do)

事業の意図	飼料生産基盤の強化	
事業の実績 と成果	取組内容	公共採草地の飼料畑造成を実施した。 畜産農家1戸の飼料畑造成、施設整備を実施した。
	成果	飼料生産基盤の強化が図られた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	畜産基盤再編総合整備事業については受益者負担が約2割の事業であるが、施設整備については建築基準に基づいた施工を行わなければならないことから、事業費が高額になる傾向にある。また、子牛相場の変動やコスト高による経営の先行きが不透明なこともあり、規模拡大を躊躇していることから事業参加を見送る農家もいる。次期計画の採択要件として熊毛地区で15ha以上(受益者1名あたり1ha以上)の造成・整備が必須条件であるが、受益面積確保に苦慮している状況である。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	令和6年度は、畜産基盤再編総合整備事業により、公共採草地の飼料畑の草地改良(2.44ha)を実施するとともに、牛舎等建築工事(畜舎1棟、堆肥舎1棟、雑用水施設整備一式、ホイルローダ1台)を計画通り実施した。近年国際情勢の変化等により、輸入牧草や飼料等が高騰しており、飼料自給率の向上がますます重要となっている。また、施設整備については、資材高騰に加え建築基準に基づいた施工を行わなければならないことから、事業費が高額になる傾向にある。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	2024年度に引き続き、まだ草地改良を行っていない圃場の草地改良に引き続き取り組む。また、県や地域振興公社と連携を図りながら、事業実施に取り組む。
------------	---